

広報ほんべつ

本別

いいひと いいまち いきいきほんべつ
HONBETSU

2014
December
No.1034

12月

表紙

第17次本別町中学生・
高校生オーストラリア・
ミッチェル訪問団



平成26年度

本別町文化祭



平成26年度 スポーツ賞・文化奨励賞授与式

平成26年度スポーツ賞・文化奨励賞授与式が11月3日、中央公民館大ホールで開催され、弓道の普及発展に尽力された山本幸男さんがスポーツ賞を、文化振興に寄与された荒木タエさんが文化奨励賞を受賞しました。

水谷令子教育委員長が「これからも健康で精進を続けられ、住みよいまちづくりのためより一層のご尽力をお願いします」と式辞を述べた後、受賞者に賞状を手渡しました。高橋正夫町長と方川一郎町議会議長の祝辞に続き、受賞者を代表して山本さんが「これからの一層研さんに励み、後進のため尽くして行きたいと思います」とお礼の言葉を述べました。



謝辞を述べる山本さん

受賞者に賞状を授与

式辞を述べる水谷教育委員長



可愛らしくポーズを決めたバレエ発表

文化祭で最も盛り上がりを見せる3日の文化の日、会場では、本別伝統文化継承会による「お茶会」や本別囲碁同好会による「囲碁コーナー」が催されたほか、生け花や陶芸、絵画など、数々の個性あふれる作品が所狭しと展示されました。午後5時30分から始まった「芸能発表会」には、23団体約130人が出演。民謡や舞踊、フラダンス、ヒップホップダンス、バレエなどが披露され、1日を通して多彩な催し物が展開されました。来場者らは、心をこめて作られた作品などに感心し、芸能発表会の出演者は温かい拍手を送っていました。文化祭では、日頃の練習の成果を「発表する喜び」、多くの皆さんが鑑賞し「感動する喜び」などたくさんの喜びにあふれていました。

文芸作品や芸能発表に 温かい拍手

本別町文化祭（町教育委員会・町文化協会主催）が11月1日から3日までの3日間、中央公民館を主会場に開催されました。文化祭は多くの皆さんが日頃の成果を披露する晴れ舞台。町民の皆さんの作品展示や芸能発表会などが繰り広げられ、会場に足を運んだ約350人の目を楽しませました。



お茶会、お点前の披露

生け花展

手芸展

「本別町新型コロナウイルス等対策行動計画」を策定しました

町では、平成21年に「本別町新型コロナウイルス等対策マニュアル」を策定していましたが、平成25年4月に制定された国の「新型コロナウイルス等対策特別措置法（特措法）」に基づき、新たに計画を策定しました。

インフルエンザは、季節性のもので抗原性の違いによりA型、B型、C型に大きく分類されます。今回、皆さんにお知らせする「本別町新型コロナウイルス等対策行動計画」は、「新型コロナウイルス」や「危険性のある新たな感染症」に関する計画です。まずは、マスク着用・咳エチケット、手洗い・うがいなど予防することが大切ですが、万が一発生した時には、この計画により対応していきます。



町の計画を新たに策定

国が定める新型コロナウイルス等対策特別措置法では、新型コロナウイルスと同様の危険性のある新感染症も対象としており、今回の「本別町新型コロナウイルス等対策行動計画」は、国が策定した「政府行動計画」および「北海道行動計画」との整合性を図り、町が実施すべき対策として、対策の基本方針を主要6項目に分類し、発生する前の未発生期から感染が落ち着いた状況とみならず小児期まで具体的な対策を定めました。特に、医療従事者や対策に従事する職員に対して実施する特定接種や、国が決定した接種順位に基づき行う住民への予防接種、緊急事態宣言時の対応などを新たな内容として盛り込んでいきます。

実施体制	国、道、町、関係機関が各段階に応じて対策の実施体制を整備する。
情報収集	対策を適時適切に実施するために発生段階に応じた情報収集を行う。
情報提供・共有	適切な行動をとるための一元的でわかりやすい情報提供と共有を行う。
予防・まん延防止	発生段階に応じた予防・まん延防止・予防接種の実施 特定接種対象者の町職員（医療従事者、対策に従事する職員等）に対して接種を実施する。国が決定した接種順位に基づき住民接種を実施する。
医療体制	道と連携し、町国保病院の医療整備を行う。診断および治療に有用な情報を町国保病院に迅速に通知する。
町民の生活及び経済の安定確保	要援護者対策の実施 保育所、老人福祉施設、社会福祉施設の使用制限については、特に支援が必要な利用者のため、一部の施設を例外的に開所するなど、発生前から道、関係機関と連携した準備を進める

関係機関の協力、町民の役割

新型コロナウイルス等の対策を推進するためには、公的機関、医療機関をはじめ、ライフラインを担う事業者の協力が不可欠です。

また、職場や学校、家庭での日常的な感染予防に努めていただくことが重要です。日ごろから、町民一人ひとりが感染予防・拡大防止のための適切な行動や食料品・生活必需品などの備蓄を行うことも必要です。

新型コロナウイルス等が発生した時は、町が提供する情報に基づき、適切な対応をお願いします。

今後は、行動計画に基づき、新型コロナウイルス等対策を推進するとともに、適時見直しを行います。

※行動計画の内容は、本別町のホームページおよび健康管理センターで閲覧できます

問い合わせ 健康管理センター ☎ 22-2219

新型コロナウイルスとは、毎年流行している季節性インフルエンザとは異なり、ほとんどの人がウイルスに対する免疫（抵抗力）を持っていません。このため、一度発生すると感染が急速に拡大し、世界的大流行となります。

平成21年（2009年）にメキシコで発生した豚由来の新型コロナウイルスは、毒性ではなかったものの、日本では発生から1年間で約2千人が罹患しました。

発生前からの対策が重要

このような新型コロナウイルスの発生を阻止することや、発生の時期を正確に予測することは、現在の科学技術では困難です。発生すると短期間で世界的大流行を引き起こすことを考えると、発生前から地域での感染（まん延）を想定した具体的な対策を進めておくことが重要です。

国民年金

2年分の国民年金保険料を前納し、納めた保険料を社会保険料控除として所得より控除する場合、次の2つのいずれかの方法を選択できます。

料控除について

①全額を納めた年に控除する場合

日本年金機構より送付された社会保険（国民年金保険料）控除証明書の「納付済保険料の証明額」欄に記載されている額が控除額になります。

※記載されている額は前納分も含めその年に納めた保険料の合計となります。

②納めた年金を各年で控除する場合

2年前納して納めた年金額を各年に分割して申告する場合、24か月全て納めたときは、3年にわたって分割して控除することとなります。各年の控除額は次の計算式により算出されます。

2年前納保険料 (平成26年確定額)355,280円	×	その年の保険料の月額 24か月
・上記計算式により求めた各年分の控除額		
〈例〉平成26年4月分から平成28年3月分を2年前納した場合		
①平成26年に控除の対象となる額	355,280円 × 9か月 / 24か月 =	133,230円
②平成27年に控除の対象となる額	355,280円 × 12か月 / 24か月 =	177,640円
③平成28年に控除の対象となる額	355,280円 × 3か月 / 24か月 =	44,410円

※2年前納分以外に各年中に納めた保険料があるときは、その額を上記金額に加えてください

●各年の控除額を算出・確認のため、「社会保険料（国民年金保険料）控除額内訳明細書」を各年の申告の都度作成し、「控除証明書」とともに提出する必要があります。

※「控除額内訳明細書」は、日本年金機構ホームページまたは帯広年金事務所まで入手し、ご自身でご記入ください。また、2年目以降の申告に必要な控除証明書は、各年の申告時に帯広年金事務所よりお取り寄せください。

●ご注意ください

一度この方法により控除を受けた場合は、①の方法による控除に戻すことはできません。また、平成27年に平成27年分と平成28年分をまとめて控除することもできません。

★控除証明書について詳しくは

ねんきん定期便・ねんきんネット等専用ダイヤル ☎ 0570-1058-1555

050から始まる電話の人は ☎ 03-16700-1144

【受付時間】 月～金曜日（午前9時～午後7時）
第2土曜日（午前9時～午後5時）

詳しくは 住民票戸籍年金担当 ☎ 22-8128

避難行動要支援者実態調査報告

調査結果報告

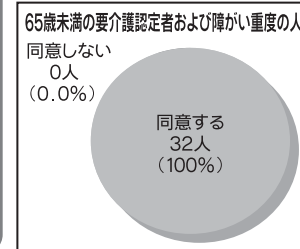
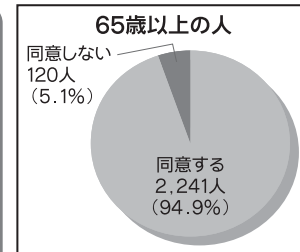
町では、災害時に自力で避難が困難な人を把握し、安否確認や避難支援を行うため、平成22年1月に調査を実施し本人の同意を得られた情報を自治会や民生委員、関係機関と情報共有を図っています。

平成25年6月に国が定める災害対策基本法が改正されたのに伴い、「避難行動要支援者名簿」の作成が市町村に義務付けられ、改めて個人情報提供に同意をいただく必要があること、前回の調査から4年が経過していることから、今年の2月から5月までの間で民生委員や自治会の協力を頂き調査を行いましたので、結果を報告します。



① 調査票の個人情報提供について

町、消防署、社協、民生委員、自治会役員に対する調査票情報の提供に同意しますか？



調査の概要

- ①調査対象者
 ・施設入所者等を除く、町内在住の65歳以上全ての人
 ・施設入所者等を除く、町内在住の65歳未満の身体障がい者（手帳1級、2級、3級、4級〈下肢機能障がい、内部機能障がい〉）、知的障がい者（療育手帳A）、精神障がい者（精神保健福祉手帳1級）、65歳未満の要介護（要支援）認定者
- ②調査期間 平成26年2月24日～5月2日

③調査対象者数および回収率

区分	65歳以上の人	65歳未満の要介護認定者および障がい重度の人
調査対象者(A)	2,506人	73人
回収数(B)	2,361人	32人
回収率(B÷A×100)	94.2%	43.8%
未回収	92人	41人
調査拒否	53人	-

個人情報の共有・保護について

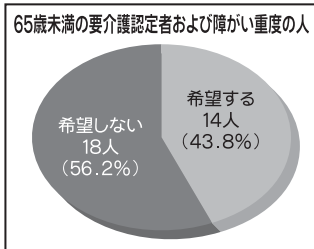
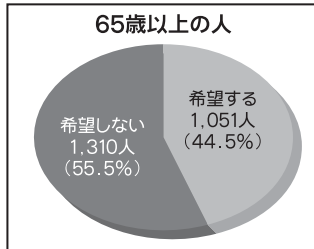
記入いただいた情報については、災害時の情報伝達や避難支援、救急搬送、自治会での安否確認や福祉活動に利用を限定するものであり、それ以外の用途に使用したり、他に情報を漏らしたりすることはありません。

災害時の活用のため、調査票の中に情報提供に関する同意署名欄を設け、「同意する」とした人については、①役場内の関係部署、②消防署、③社会福祉協議会、④民生委員、⑤自治会、との情報共有を図ります。

② 災害時

避難支援希望者

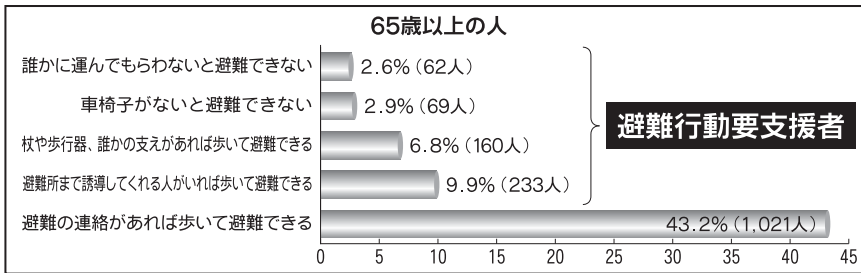
災害時の避難場所への避難について、隣近所や自治会の支援を希望しますか？



③ 災害時の避難支援内容

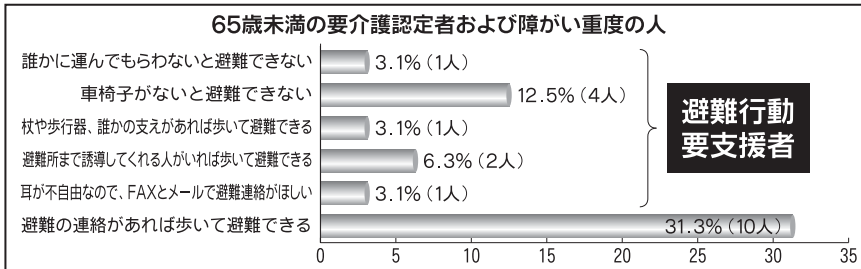
災害のとき、避難するにあたり、どのような支援が必要ですか？

(当てはまるもの1つに○をつける)



○「災害時避難支援希望」の有無に関わらず、「災害時避難支援内容」欄に記入した人が多く、特に避難支援を必要としないが「避難の連絡」を希望する人が多かった。

○避難所までの誘導・介助を希望する人は524人で、全体の22.2%を占めています。



～避難行動要支援者の要件～

高齢者や障がいのある人の避難能力の有無は、「①避難勧告や避難指示等の災害関係情報の取得能力」、「②避難そのものの必要性や避難方法等についての判断能力」、「③避難行動を取る上で必要な身体能力」の3点に着目して判断することが必要です。

本町では、避難所への誘導・介助が必要な人について「避難行動要支援者」としています。

今後は、災害時における避難支援体制づくりのため、自治会の皆様のご協力をいただき、避難行動要支援者の確認、避難時の協力員の選定など、自治会の皆さんと話し合う場を作っていただきたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いします。

問い合わせ 総合ケアセンター内 高齢者福祉担当 ☎22-8520

姉妹都市～ 『親切』が人をつなぐ

第17次ミッチェル訪問団

指導員 横山 亨
(本別中学校教諭)



陸続きに国境のない海に開かれた二つの国、オーストラリアと日本。日本は島国で、オーストラリアは大陸。ひとつの大陸からなるオーストラリア。それだけですでに魅力的な国です。これまで私は旅行や研修でヨーロッパ諸国や中国を訪れたことがありますが、オーストラリアは初めてです。しかも南半球に位置し、季節が日本と真逆という新鮮さもまた私の気持ちをわくわくさせました。その反面、目の前には大きな心配事がひとつありました。それは『生徒の海外引率』ということ。『事件や事故に巻き込まれるわけにはいかない』、『何事もなく帰国しなくては』。そのことばかりが私の頭の中を支配していました。そして訪問を楽しむという気持ちは薄らいでいました。

ミッチェル訪問で私が最もお世話になったホストファミリーのAudehmさん夫妻。お二人はミッチェル本別訪問団の一員として9月に来日されました。本別町でのWelcome Partyでお会いし、ほんの短い間でしたが会話を楽しみました。Audehmさん夫妻との会話を境に不安な気持ちよりも、早くお二人に再会したいという気持ちが勝ってくるのを感じました。

ミッチェル滞在中、事務局を担当されていたGayle Phillipさんに『どうしてこの活動を続けているのですか?』と質問すると、『私が初めて訪問団として日本を訪れた時、多くの日本の方々に親切にしてもらいました。その恩返しをしているだけです』という答えが返ってきました。

今回で17回目の国際交流研修派遣。ミッチェル市と本別町という姉妹都市の関係が、私を含め本別町からの訪問団一人ひとりとミッチェル市の皆様を結び付けてくれました。言葉も文化も季節も違うオーストラリアと日本で、人と人をつなぐものは共通しているということを感じることができた訪問でした。今回の訪問で関わって下さった全ての方々に、この場を借りて感謝したいと思います。有難うございました。

かわいい子には 旅をさせろ

第17次ミッチェル訪問団

団長 鈴木清志
(町教育委員)



ミッチェル市は大都市メルボルンのベットタウン化している。通勤時間が1時間以内というところで、広い敷地の中で牛や羊、乗馬用の馬が飼える面積が確保出来る比較的恵まれた環境にある。家の周囲にはペット犬が逃げ出さないよう塀がめぐらされている。でも今は盗難避けの意味が大きいらしい。

本別の郊外でみられるエゾ鹿と同じ感じで野生のカンガルーがいる。市街地に近いゴルフ場の中で一度に50頭以上の群れを見た。

こんな環境のミッチェル市に第17次訪問団は訪れた。本別中学校6人、勇足中学校5人の11人の生徒と本別中学校英語教師の横山先生、添乗員と私の14人のメンバーで、姉妹都市の友好を深め、市内の学生達と友情を深めてくるのが目的である。

ミッチェル市長のロドニー・パーカーさんに出会った際、庁舎の玄関脇に日本庭園が造成され、今回その除幕式に立ち会った。ミッチェル国際交流協会のメンバーにも知らされていなかったサプライズであった。

他、中学校、小学校2校、インターナショナルスクールと訪問してきたが、どの学校でも歓迎を受けた。ありがたい限りです。

本別の中学生も物怖じせず、英語で堂々と自己紹介し、11人声を合わせて歌い、事前研修で練習した「だるまさんが転んだ」などの遊びを披露した。遊びの説明は中学生自ら英語で行った。話が伝わり中学生は自分に自信をつけたようだ。やはり、この交流事業は子どもの成長にだけだけ貢献しているのか、すばらしい限りである。

第17次本別町中学生・高校生 オーストラリア・ミッチェル訪問団 Best Friend MICHELL 隊

研修体験記

平成26年10月10日～18日

町中学生・高校生国際交流研修派遣事業の訪問団(鈴木清志団長)の中学生団員11人が、9日間の日程で姉妹都市オーストラリア・ミッチェルを訪れ、ホームステイや市長訪問のほか、学校訪問などを行い交流を深めながら見聞を広めて無事に帰町しました。

研修日程



10月10日(金)
本別町発 午前11時
成田空港発 午後8時30分

10月11日(土)
シドニー空港着 午前8時10分
メルボルン空港着 午前11時36分
ミッチェル着 午後4時
ウェルカムパーティー
ホームステイスタート

10月12日(日)
視察研修(ホストファミリーと自然公園を散策)

10月13日(月)
視察研修(学校訪問1校、市内散策)
市長訪問(市役所玄関に日本庭園が完成)



10月14日(火)
視察研修(学校訪問3校)



10月15日(水)
視察研修(銀行、警察署など)
フェアウェルパーティー

10月16日(木)
ミッチェル発 午前8時45分
メルボルン空港発 午前11時
シドニー空港着 午後0時25分
自主研修(水族館、シドニータワーなど)

10月17日(金)
シドニー見学(フルーマウンテン、オペラハウスなど)
シドニー空港発 午後10時30分



訪問団員からの感想

オーストラリアで学んだこと

団員 荒井 香里 さん (本別中3年)

私は、この研修で沢山の事を学ぶことができました。ホームステイでは、不安な事が沢山ありました。でも、ホストファミリーはそんな私に優しく接してくれました。それから不安は無くなり、楽しくホームステイすることができました。英語が飛び交っている中、自分が伝えたい事を言えない時もありましたが、習った英語などを使い、自分が相手に伝えたい事を伝えることができました。でも、まだ聞き取れない英文が沢山ありました。だから、またオーストラリアに行く機会があれば、もっと英語を勉強し、ちゃんと話せるようになってから行きたいです。とても楽しかったです。



「ミッチェル」

団員 太田 龍聖 さん
(本別中3年)

今回、ミッチェルに行き僕はとても楽しい思い出をつくることができました。

中でも一番の思い出は2日目の夜です。僕のホームステイ先の息子さんのベン君と、外でプーメランで遊んでいる時に、お父さんのマイケルさんとお母さんのスザンヌさんがステーキを焼いていました。今日は僕が来てくれた大切な日ということで夕食はステーキを用意したと、ベン君が教えてくれました。皆で、食事の準備をした後、話をしながら楽しく食事をしました。この思い出は、絶対に忘れること無く、一生大切にしていきたいと思っています。



沢山の思い出

団員 久常 優花 さん (勇足中2年)

ホームステイの方は、優しくフレンドリーでした。なので、とても不安で緊張していた私もホストファミリーのフィリップス家での5日間はリラックスすることができました。シドニーでの自主研修でも、色々な所を見学し、沢山の思い出をつくることができました。また機会があれば、行きたいです。このような訪問の機会を与えて下さりありがとうございました。



一生忘れぬ貴重な体験

団員 大市 辰哉 さん
(勇足中2年)

オーストラリアで過ごした8日間で、日本ではなかなかできない体験ができました。また、文化の違いを感じることができました。例えば食事です。ホームステイ先では白米があまり出ず、朝食はシリアルが主でした。訪問した学校は、中学校と高校がくっついている学校でした。校舎は平屋建ての物がほとんどでした。

僕はこの国際交流が一生忘れぬ、とても貴重な体験になりました。学んだ多くのことをこれからの生活に生かして行きたいと思えます。改めてこの研修に参加できて良かったです。



忘れられぬ思い出

団員 内田 豪志 さん (本別中2年)

僕は初めての海外での生活で、色々なことを経験させていただきました。飛行機の搭乗から、ほとんどが初めてのことがばかりでした。ミッチェルでのホームステイでは、優しく話しかけてくれました。答えに戸惑ってしまったり、積極的に話しかけることができませんでしたが、ホストファミリーの皆さんの優しさが大変感謝しています。今回の訪問は、忘れられない思い出になりました。本当にありがとうございました。



楽しいひと時

団員 鴨井 伶旺 さん
(勇足中2年)

僕は今回の訪問を、とても楽しむことができました。日本とは違う気候や街並みはとても新鮮でした。言葉が通じないということで少し不安もあったのですが、オーストラリアの方々の明るさやとても親切に接していただき、その不安も無くなりました。ゆっくりと英語を話してくれて、なんとなくですが話している意味が解りました。僕がこの訪問を楽しめたのも、オーストラリアの方々が親切にしてくれたからです。今度は普通に英会話ができるようになって、オーストラリアに行きたいです。本当にありがとうございました。



ホストファミリーに感謝

団員 鎌田 真輝 さん (本別中2年)

オーストラリアで、ホストファミリーの方々と過ごした5日間は、一生の思い出になりました。ホームステイ先では、あまり英語が伝わらなかったり、遠慮がちな部分がありましたが、とても楽しかったです。また、ホストファミリーの方々が、とても優しく親切だったので、とても居心地が良かったです。またこのような機会があれば、ミッチェルに行きたいと思いました。



気づいた大切な事

団員 貞本 匠 さん
(勇足中3年)

私はオーストラリアに行って、文化や食生活などについて学んできました。ですが、それとは別に大切なことに気づくことができました。それは『普段の日常で当たり前のことが、とても大切』ということです。親の存在、自分が住む家や母の料理、友達など、普段の日常で当たり前だと思っている物から離れるととても恋しくなり、その大切さが身にしみてよく分かるということに気づきました。

そう気づいた時はホームステイをしていて、朝起きて見た風景にいつもの部屋や家族が居なく、とても寂しくなりましたが、ホストファミリーの温かさを受け、とてもうれしく、感謝しました。今回の訪問を日々の生活に生かし、また、友達にも伝えていきたいです。



最高の仲間たちに感謝

団員 城浦 教祐 さん
(勇足中3年)

私は、今回の研修で初めて海外へ出ました。初めて海外に着いた時は、ワクワクドキドキの興奮でいっぱいでした。訪問団のリーダーをやらせていただき、初めはすごく不安でしたが仲間と事前研修を重ねるうちに、一人ひとりの絆が深まり、今回の旅も皆で団結した行動ができたと思います。団員の皆さんに感謝でいっぱいです。

ミッチェルに着いてからは、ホームステイ中、ホストファミリーの皆さんの温かいお心遣いにより不安なく生活でき、とても楽しく過ごせました。また、初めてのことがばかりだったので、解らない事はしっかりと聞いて沢山学ぶことができました。文化のさまざまな部分をしっかりと吸収してきたので、皆さんに伝えたいです。きっとこの旅が僕の将来、どこかで生かされるよう努力していきたいです。オーストラリアは最高でした。



親切だった オーストラリアの人たち

団員 岡本 行生 さん
(本別中3年)

僕は、今回の研修でどんな人に出会うのか、とても楽しみでしたが、とても不安でもありました。シドニー空港に着いた時に周囲の人から、日本語は通じないと聞き、無事にホームステイできるか不安になりました。ですが、ホームステイ先のゲイツ一家の方々は僕に解るように一言一言丁寧に発音してくれたので、意外と早くコミュニケーションが取れるようになって良かったです。少し学校で習う発音と違いましたが、授業で教わったことに救われた部分も大きかったです。しかし、文法だけでなく、圧倒的に単語も知らな過ぎると気づきました。

今回、沢山の思い出ができました。まだまだもっと英語を勉強して、いつか絶対もう一度オーストラリアに行って、ゲイツ一家に会いたいです。



大切な思い出

団員 西村 明莉 さん
(本別中3年)

私はこの研修でとても楽しい思い出をつくることができました。特にホームステイは私にとってとても大切な思い出になりました。英語があまり得意ではなく、しっかりホストファミリーに気持ちを伝えることができるかどうかとても不安でした。そんな私をホストファミリーの皆さんは温かく迎え入れてくれて、翻訳機や動作などを使って一生懸命話しかけてくれました。そんなホストファミリーの様子を見て、優しさを感じました。言葉や言いたい事は伝わらなくても、それを伝えようと思う気持ちや努力することが大事なんだと学ぶことができました。ホームステイから学んだことをこれからの生活に生かしていこうと思いました。

6日間という短い期間だったけど、ミッチェルの皆さんの優しさや温かさを感じ、過ごすことができた時間は、私にとって一生の宝物です。ミッチェルの皆さん、本当にありがとうございました。



平成25年度版

わがマチ マイタウン本別

のだいどころ

このように使われました!

平成25年度の各会計の決算状況がまとまりました。皆さんから納めて頂いた大切な税金や国・道からのお金などが、どのように入ってきて(歳入)、どのように使われたか(歳出)、また、今の本別町には財産や預金、借入金がどれくらいあるのかを、表や豆グラフを使ってできるだけわかりやすくお知らせしたいと思います。

一般会計の決算状況

保入金! 61億2,199万円(1,000円未満の金額を単位として) 1,000円未満の金額を単位として

依存財源: 国や道の決定や割り当てに基づいて入ってくるお金のことです。地方交付税や国庫支出金・道支出金のほか、地方譲与税、各種交付金、また、地方債(町債)もこれに該当します。
自主財源: 町税など皆さんに納めていただくお金のことで、他に分担金および負担金、使用料および手数料、寄付金、繰越金等があります。財政の自主性と安定性を確保する上では、自主財源の割合ができるだけ高いことが望ましいです。



歳出
総額 **78億1,535万円**
町民1人当たり 101万650円

歳入
総額 **79億4,023万円**
町民1人当たり 102万6,798円

町民1人当たりは、平成26年3月末人口7,733人で算出しております。



豆のマチほんべつだから(豆さやグラフ)

地方交付税

地方交付税は、国から交付される町の大きな収入源となっています

地方交付税は、法に基づき交付されるものです。うち普通交付税が、右のトラ豆グラフの通り町の重要な収入になっています。

- さて、普通交付税がどのように計算されるかという、
 - 全国的に標準となる町のモデルを作る
 - このモデルの必要な経費を計算する
 - 本町分は、このモデルの経費を補正して計算する
 - 算出された経費総額から本町の収入を差し引く
- このように計算したものが、町の普通交付税収入です。

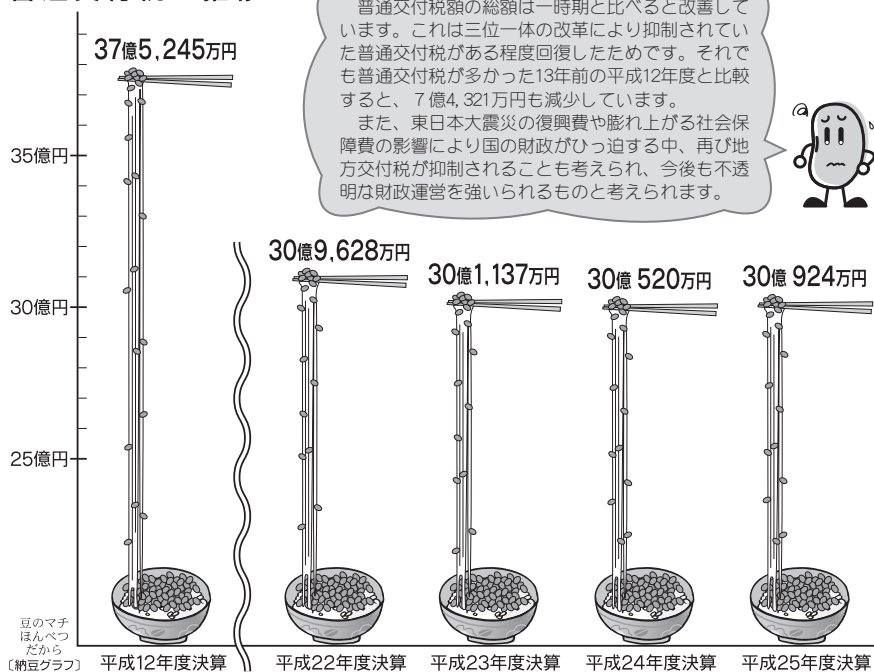
地方交付税には2種類あります

地方交付税には、普通交付税と、特別交付税があります。大きなものが普通交付税で、特別交付税は、災害があった時など特殊な事情に対して交付されます。

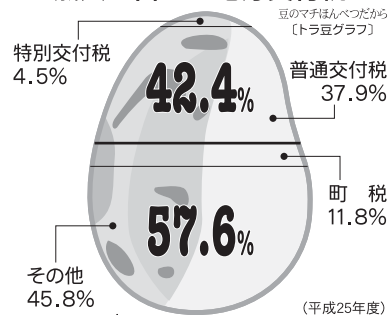
国の財政事情や政策が普通交付税に反映

普通交付税は、国税（所得税・酒税・法人税・消費税・たばこ税）収入の一定割合により交付されますが、景気の落ち込みによる税収不足により、国債の発行など、その他の財源も使って交付されています。従って、国の財政事情や政策が普通交付税交付額に大きく反映されます。どのように普通交付税が推移してきたかは、下の納豆グラフの通りです。

普通交付税の推移



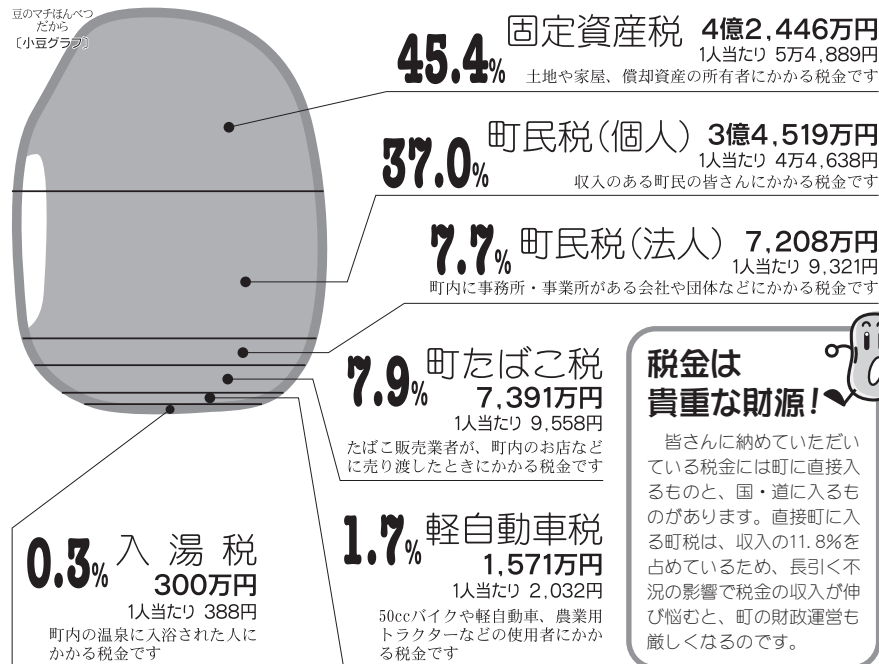
歳入に占める地方交付税



本別町の財政が厳しくなっている原因は、この普通交付税が大幅に減額されてきたことによるものです。

町税の内訳

総額 9億3,435万円
町民1人当たり 12万826円



税金は貴重な財源!

皆さんに納めていただいている税金には町に直接入るものと、国・道に入るものがあります。直接町に入る町税は、収入の11.8%を占めているため、長引く不況の影響で税金の収入が伸び悩むと、町の財政運営も厳しくなるのです。

一般会計の財産および預金等の状況

町にも預金があるんです

町も皆さんの家庭と同じように、余裕のあるときには預金を積み立てて、大きな事業を行うときにやりくりが苦しくならないようにしています。

財産の状況

公有財産 土地	1,550ha
公有財産 建物	10万6,646㎡
山林	1,300ha
有価証券および出資金	7,485万円
車両	62台

豆辞典
財政調整基金: 町の財源を調整するための預金
減債基金: 借入金の返済に充てるための預金

預金(基金)等の状況

基金等の種別および目的		平成25年度末現在高
積立基金	財政調整基金	15億9,880万円
	減債基金	5億8,442万円
	福祉の充実	2億7,111万円
	産業の振興	1億3,824万円
	教育・文化・スポーツの振興	1億3,136万円
特定目的基金	その他	9億1,375万円
	定額運用基金	2億1,032万円
その他	その他	7,964万円
	合計	39億2,764万円

平成25年度主な事業

～一般会計分～

生涯を通じて学び 豊かな心を育むまちづくり

学校施設環境改善交付金事業 (学校給食共同調理場改築・新給食車購入) 事業費 6億5,767万円
補助金 41.4% 借入金 45.8% 一般財源 12.8%
太陽の丘野球場整備事業 事業費 1億785万円
補助金 100.0%

快適でやさしさのある まちづくり

本別町都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業 (本別公園等整備) 事業費 2億4,360万円
補助金 50.0% 借入金 47.3% 一般財源 2.7%
栄町公営住宅建替事業 事業費 9,925万円
補助金 46.6% 借入金 46.2% 一般財源 7.2%
向陽町公営住宅改善事業 事業費 6,730万円
補助金 45.4% 借入金 44.6% 一般財源 10.0%
除雪車両購入 事業費 3,536万円
補助金 60.0% 借入金 32.2% 一般財源 7.8%

「ともに学び支えあい

活力のあるまちづくり」を目標として

町では、まちづくりの長期計画として、第6次総合計画(平成23年度～平成32年度)を定め、分野項目に分類して各種事業を実施しています。

ともに支えあい安心・安全に 暮らせるまちづくり

介護基盤緊急整備等特別対策事業 (老人福祉施設・公民館・児童館等改修) 事業費 6,858万円
補助金 90.1% 一般財源 9.9%
街路灯整備 事業費 2,300万円
一般財源 100.0%

地域資源を生かした 豊かなまちづくり

美蘭別地区水源調査委託 事業費 3,085万円
一般財源 100.0%
道営経営体育成基盤整備事業 (暗渠排水整備等) 事業費 1億1,871万円
補助金 30.9% 分担金 37.1% 一般財源 32.0%

一般会計の借入額

借入金(町債)の状況

借入の目的	平成25年度借入額
道路新設改良舗装	4,010万円
除雪ダンプ購入	1,140万円
公営住宅建設	7,590万円
本別公園等整備	1億1,520万円
給食センター改築	3億150万円
医療機械器具の購入	1,380万円
橋梁長寿命化事業	530万円
消防救急無線デジタル化整備	190万円
過疎地域自立促進特別事業	8,430万円
臨時財政対策債	2億6,016万円
合計	9億956万円

※臨時財政対策債とは～地方交付税の代わりとして発行される地方債で、将来は地方交付税で償還額が充当される

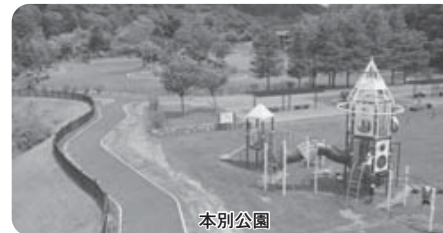


給食センター

なぜ借入金(町債)をするの?

町で行う大きな事業には、国からの同意を受けてお金を借りるものがあります。当然その年度の収入だけでは足りないから借りるのですが、また違った意味もあるのです。皆さんが納めた税金などを使って10年、20年かけて借入金を返済していくことにより、長く使われる施設は、「使用する世代みんなで負担しよう」という意味もあるのです。

そして、返済金の一部を国が負担してくれる有利な借入れを選択したり、以前に借りた利率の高いものを現在の利率の低いものに借り換えたりして、町の負担が少しでも小さくなるようにやり繰りをしているんですよ。



本別公園

特別会計・企業会計の決算状況

企業会計

	歳入	歳出
国民健康保険 病院事業会計	12億2,076万円	13億632万円
資本的収支	1億154万円	1億3,110万円
水道事業会計	1億4,221万円	1億3,897万円
資本的収支	3,624万円	7,668万円

特別会計

	歳入	歳出
国民健康保険特別会計	14億404万円	12億7,595万円
後期高齢者医療特別会計	1億1,260万円	1億1,222万円
介護保険事業特別会計	8億9,547万円	8億7,787万円
介護サービス事業特別会計	2億8,085万円	2億7,505万円
簡易水道特別会計	1億5,957万円	1億5,752万円
公共下水道特別会計	5億2,346万円	5億1,936万円

町では事業を効率よく運営していくために、大きく3つの財布(会計)に分けています。一般会計は、町政を運営するための中心的な経理をするための財布。特別会計は特定の収入・支出を他のものと区別して経理するための財布。企業会計は、独立会計・特別会計とは全く違い、独立採算制を基本としているので、民間の会社のような会計になっています。



一般財源：何にでも使えるお金で、例えば町税・地方交付税などです
収益的収支：経営活動に伴い発生(予定含む)するすべての収益と費用のことです
資本的収支：将来の事業活動に備えて行う建設改良および建設改良にかかる企業債借入金などの支出とその財源となる収入のことです



借入金って、あとどれくらい残っているの?

特定の収入で運営される特別会計や企業会計を除く、平成25年度末の現在高は65億4,701万円で、町民1人あたり約84万円となっています。
 地方交付税などの収入が大きく落ち込んでいることから、いっそうの経費節減などを実施して今後の返済計画を立てています。

※債務負担行為とは～1つの事業が単年度で終了せず、翌年度以降も支出が必要なもの

マチの借入金現在高(平成25年度末)

総額 122億4,939万円

町民1人当たり 158万4,041円

	内 訳	金 額	町民1人当たり	
一 般 会 計	道路新設改良舗装	9億2,216万円	11万9,250円	
	農林道および農業基盤整備	4億1,699万円	5万3,923円	
	公営住宅建設および改良	7億7,486万円	10万202円	
	学校建設および改築	5億439万円	6万5,226円	
	災害復旧	1,902万円	2,460円	
	臨時財政対策債	26億5,451万円	34万3,270円	
	その他	12億5,508万円	16万2,302円	
	小計	65億4,701万円	84万6,633円	
	特 別 会 計・ 企 業 会 計	病院事業	11億7,449万円	15万1,880円
		簡易水道	6億2,564万円	8万905円
公共下水道		30億9,810万円	40万634円	
上水道		8億415万円	10万3,989円	
小計	57億238万円	73万7,408円		
【参考】債務負担行為(一般会計)		4億3,230万円	5万5,903円	

ほんべつ学びの日光風・夢風事業 第52回 本別町PTA研究大会

本のまち夢づくり講演会



ほんべつ学びの日光風・夢風事業、第52回本別町PTA研究大会「本のまち夢づくり講演会」が10月24日、作家宮沢賢治を長年研究している宮城県出身で写真家の佐々木隆二さんを迎え、中央公民館で開催されました。

宮沢賢治の世界を堪能

講演会の始めに、宮沢賢治の代表作「風の又三郎」を佐々木さんが物語にあわせて撮影した白黒写真を上映しながら図書館ボランティアぶっくるの会員5人による朗読が行われ、続いて「風の又三郎は北海道で生まれた」と題した講演が行われました。

佐々木さんは、「宮沢賢治は自然の翻訳者で、自然の言葉を自分の物にし、五感を使ってこれをオノマトベ（擬音、擬態語）で表現する達人だった」「教え子の証言から、宮沢賢治は本能や直感で行動することが多くそれが作品の母体になっている」と宮沢賢治の真似を交えながら人となりを紹介したほか、気象を背景にして描かれている「風の又三郎」の舞台について説明しました。

来場した約150人は、写真や講演等を通じて、目や耳で宮沢賢治の世界を堪能しました。



佐々木さんの写真に合わせ「風の又三郎」を朗読する図書館ボランティアぶっくるの皆さん

児童らも宮沢賢治の世界に触れる

同日、本別中央小学校では同校の4～6年生、勇足・仙美里小学校の5～6年生の152人を対象に本のまち夢づくり出前授業も行われ、児童らは佐々木さんの講話を通じて、作家「宮沢賢治」のさまざまな顔や「風の又三郎」の物語に触れました。



銀河サロン

10周年記念事業



利用者との会話に笑顔を弾ませる三井委員長

街中で誰もが気軽に交流できる場所を作り、普段の生活に生きがいを持ってもらうようと平成17年度から開かれている「銀河サロン（銀河サロン運営委員会主催＝三井誠子委員長）」の10周年記念事業が10月23日、中央公民館で行われました。

利用者集い、10年を祝福



食事を楽しむ利用者

記念事業では、初めに三井委員長が約70人の利用者を前に「皆さんに支えられてここまで続けることができました。これからも皆さんの笑顔のためにがんばります」とあいさつ。会場からは大きな拍手が送られ、引き続き利用者らは昼食に同運営委員会会員やボランティア手作りの赤飯、煮物、味噌汁等をいただき、10周年を祝福しました。

食事後には、町国保病院理学療法室の加納徳幸氏による手や頭の体操講座も行われ、利用者は会話を楽しみながら心と体をリフレッシュし、和やかなひとときを過ごしました。

同サロンはどなたでも参加でき、毎月3回程度、アースホールを会場に健康ダンスやカラオケ、集いで交流しています（集いの日は昼食があり、食事代がかかります）。日程は本別町社会福祉協議会（☎22-8320）へお問い合わせください。



簡単体操にチャレンジ

ほんべつ学びの日 フェスティバル



徳島県小松島市立立江小学校との交流報告をする勇足小学校児童
ほんべつ学びの日フェスティバル（町教育委員会主催）が「まち中に4つの風を吹き渡らせよう！」をテーマに11月15日、中央公民館および町体育館で開催されました。

大人も子どもも 日々学ぶすばらしさを実感



大人も漢字検定にチャレンジ



おもしろいカンタン工作教室



各種作品展示

オープニングの啓発セレモニーでは、水谷令子教育委員長、高橋正夫町長のあいさつの後、来場者全員で「ほんべつ学びの日宣言」を朗唱。大人と子どもと一緒に日々学ぶことを例えた「4つの風」について紹介しました。

続く中学生意見発表会では、本別中学校1年の加藤明日香さん、勇足中学校3年の城浦教祐さんがそれぞれ豊かな表現力と堂々とした態度で発表を行ったほか、勇足小学校（吉藤清孝校長）の5・6年生15人による徳島県小松島市立立江小学校との交流報告会や本別高等学校吹奏楽部の演奏、第17次中学生オーストラリア・ミッチェル訪問団による報告会が行われました。

この他、それぞれの館内では、ニュースポーツや漢字検定体験、カンタン工作教室などの体験コーナー、バザー、各種展示、映画鑑賞会も行われ、来場した約400人が、1日を通じて、大人も子どもも学ぶことのすばらしさを実感しました。

子どもの笑顔があふれるまちづくり Part 7 保育所はこんなところ

保育所は、保護者が仕事や病気などにより家庭で幼児を保育することが困難な場合、保護者に代わって保育を行う施設です。
町には4つの保育所があり、「創造性豊かで、やさしく素直、明るく元気に遊べる子ども」を育むため、一人ひとりが有意義な保育生活を送れるよう環境を整えています。「ご家庭で愛情いっぱい育てられている大切なお子さんを、責任をもってお預かりします。」

保育所の一泊

- 10:00まで 登所・自由遊び・お片付け
- 10:00～ 設定保育
(保育課程にそった保育)
- 11:30～ 給食
- 12:15～ 自由遊び
- 13:00～ 午睡
- 15:00～ 目ざめ、布団片付け
- 15:20～ おやつ・帰宅準備
- 15:45～ 集い(全員でさようならをする)
- 16:00～ 降所



平成27年度から保育所への 入所要件の一部が変わります

中央保育所および南保育所は、平成27年4月から施行予定の「子ども・子育て支援新制度」により、保育所に入所する際は次のいずれかの要件が必要となります。

●入所要件

- ① 就労（1月当たり48時間以上※の就労）
- ② 妊娠、出産
- ③ 保護者の疾病、負傷、障害
- ④ 同居親族等の介護、看護
- ⑤ 災害復旧
- ⑥ 求職活動、起業準備
- ⑦ 就学、職業訓練
- ⑧ 虐待やDVのおそれがあること
- ⑨ 育児休業取得時に、既に保育所を利用している子どもがいて継続利用が必要であること

いずれかの要件を満たしている場合、保育の必要性の認定を受け、保育所に入所することができます。

※平成33年4月以降に保育所に入所する場合は、1月当たり64時間以上就労していることが要件となります。また、就労を理由として保育所を利用する場合は、就労時間に応じて「保育標準時間（1時間保育）」または「保育短時間（8時間保育）」いずれかの認定を受けることとなります。

●保育年齢基準

- ・中央保育所・南保育所はおおむね6か月のお子さんから
- ※勇足保育所・仙美里保育所は満3歳以上のお子さんから

★平成27年4月からの保育所入所を希望される人の入所申し込みは、平成27年1月から受付を開始する予定です

※具体的な申し込み方法は、平成27年1月1・15日合併号くらしの情報紙がけしでお知らせします

問い合わせ

子ども未来課子ども・子育て支援担当 ☎22-8130

HELLO 本別中央小学校

学校教育目標
 自らを高めようとする子ども
 考える子
 助け合う子
 がんばる子

元気いっぱいの41人の1年生を迎え、全校児童249人でスタートした本別中央小学校。今年の合い言葉は、「挨拶、返事、後片付け」です。校舎の中でも町の中でも、いつも元気な声が響き渡る学校を目指し、学校・家庭・地域が一体となって特色ある教育活動に取り組んでいます。

入学式

4月8日(火) 緊張と喜びの入学式。
 新しい仲間41人が元気いっぱいに入学してきました。



4月に入学した1年生。半年が過ぎ、今ではすっかりお兄さんお姉さんになりました。勉強も遊びも、給食も掃除も、みんなで力を合わせて毎日一生懸命がんばっています。

12月の授業参観日では、成長した姿をお見せできると思います！

運動会

6月7日(土) 前日までの天気が一転。開催が危ぶまれる天候でしたが、子供たちのパワーで無事実施できました！



あいにくの天候で、小雨が降る中での運動会でしたが、たくさんの方の保護者・地域の方のご来場をいただいて開催することができました。

行事の取組を通して、子供たちも大きく成長し、学年・学級の団結力も強くなりました。

学習発表会

10月19日(日) 学習発表会を開催しました。歌や楽器に踊り、劇と子供たちの熱演が繰り広げられました。



早朝より多くの方にご観覧いただきました。これまでの学習の成果の発表の場として、音楽、劇を含め図工や家庭科の作品展示など、子供たちが身に付けた力を存分に発表することができました。

Information

第12回 障がい者週間記念事業

チャレンジ ～みんなで参加してたのしもう!!～

毎回好評をいただいている創作劇をはじめ、障がいの有無に関わらず、大人から子供まで楽しんでいただけるようさまざまな催し物を企画しました。皆様のご来場をお待ちしています。

とき 12月6日(土) 午前10時～午後2時

ところ 中央公民館

創作劇 テーマ「後見だよ！全員集合!!」 午前11時20分～

出演：えがおの輪 会員19人 脚本：えがおの輪 井出直美さん

今回の創作劇は、「いつまでも住みなれた地域で、安心して暮らしたい」と願う高齢の人や障がいを持たれた人の権利と財産を守るための仕組み「成年後見制度」についてです。

昨年本別町で市民後見人養成研修を受講・修了した「えがおの輪」(藤井勝敏会長)会員がこの制度について分かりやすく楽しい劇を上演します。ぜひご覧ください。



創作劇上演に力を入れる出演者の皆さん



藤井会長

劇は、悪徳商法にだまされる認知症の人とその人を守る後見人のお話です。皆さんに楽しんでもらえるよう10月から練習を重ねました。見どころ満載ですので、お楽しみに！

フードコーナー

- カレーライス …… 200円
- クレープ …… 200円
- おでん …… 100円
- 豚汁 …… 150円
- コーヒー・ソフトドリンク …… 各100円
- フランクフルト …… 150円
- ホットドック …… 300円
- わたあめ・ポップコーン 無料



冬の縁日

型ぬき、駄菓子、景品くじ、スーパーボールすくい

昔なつかし遊び

コマ、けん玉、おはじき、めんこ、おりがみ

工作教室～作ってみよう～

おてだま、わりばしてっぽうなど

※他にも簡単にできる工作を用意してお待ちしています

販売・展示・相談

- 手作り小物販売 (つつじの園、アメニティ本別)



- 福祉なんでも相談窓口
- チャレンジドネットワーク加盟団体紹介
- 福祉用具展示販売 (協力店=富士ホームセンター)

主催 チャレンジド・ネットワークほんべつ

身体障害者福祉協会本別町分会・本別町手をつなぐ親の会・そらの会・NPO法人ほんべつつつじの園 さわやかサークル・本別町特別支援教育振興会・銀河サロン運営委員会・NPO法人インクルードラムピリカ・本別フリーライブ

問い合わせ

本別町社会福祉協議会 ☎22-8320

総合ケアセンター障がい者福祉担当 ☎22-8520

相手の立場に立った 介護の必要性を再認識 10 27

本別町や上土幌町、池田町、足寄町の各特別養護老人ホームで組織する十勝よりそいケア研究会（賀陽龍司会長）主催による「十勝よりそいケア研究会inほんべつ」が10月27日、中央公民館で開催されました。この研究会には、同会加盟施設や十勝管内老人福祉施設、グループホーム職員など約140人が参加。加盟施設の職員4人が、日ごろの業務で学んだ介護を受ける側に立った介護の必要性などの実践発表を行ったほか、北海道美瑛慈光会安部信一理事長などによる介護業務に関する講話が行われました。参加者らは、実践発表などを通じて、介護業務における利用者との信頼関係の構築の大切さについて再認識しました。



秋の食と自然を満喫 10 25

ほんべつ学第3回秋の講座「ふるさと食材でクッキング！～森とふれあいながら」が10月25日、ゲンキッチンなどで開かれました。講座では、参加した24人が本別産の小麦を使ったピザ作りに挑戦したほか、ピザ生地を発酵させている間には帯広百年記念館の学芸員2人を講師に本別町の鳥「アカゲラ」の生態についての学習。最後は本別神社に出掛け、次回講座で使用するリース作りの材料となる木の実や落ち葉をたくさん拾い、ふるさと本別の食と自然を満喫しました。



心の込もった演奏会 10 26

本別中学校吹奏楽部（篠田亜亜部長）第32回定期演奏会が10月26日、同校体育館で開かれました。29人の部員は、10のパートに分かれて2部構成のステージでアンコールを含め12曲を披露。この演奏会で活動を終える3年生が、1・2年生へ感謝を込めて演奏のプレゼントを贈ったほか、同校野球部員が日ごろの応援演奏のお礼にダンスを繰り広げる場面もあるなど、涙あり、笑いありの趣向を凝らした演出に、会場を訪れた保護者や同級生など約160人から温かい拍手が送られました。



「ほんべつ豆まかナイト」 をPR 10 24

本別町商工会青年部（岡崎慶太郎）が、10月24日、役場を訪れ高橋正夫町長に「ほんべつ豆まかナイト」のイベントPRを行いました。同ナイトは、来年1月31日に実施されるほんべつ雪あかりナイトと同日に開催され、豆まきはもちろんだら、ゲームやスタンプラリーなどさまざまな催しが計画されています。本別の子供たちに本別産の豆に触れてもらおうと、豆アート作りの参加も呼び掛けており、岡崎部長は試作品を手「親子や友達同士でぜひ作ってほしい」と語りました。参加者の募集など詳細は本別町商工会（☎22-2529）まで。



火災予防を呼びかける 10 21-22

本別消防団（木下登美夫団長）の女性消防団員による65歳以上の一人暮らしの女性を対象とした防火訪問が10月21日、22日の2日間、町内で行われました。これは、秋の火災予防運動期間に合わせて実施されたもので、女性消防団員3人は、町内の2地区15件を訪問。設置が義務付けられている火災警報器設置状況などの確認のほか、防火啓発チラシを手渡ししながら「火の取り扱いには気を付けてください」などと火災予防を呼び掛けました。



地産地消や 食の大切さを学ぶ 10 23

道徳教育特別非常勤講師授業が10月23日、本別中学校（山口弘康校長・147人）の生徒を対象に同校体育館で開かれました。フードライターの小西由稀さんを講師に迎え、「本別中学校のみなさんと一緒に考える北海道の魅力、食の魅力」と題した講話が行われました。小西さんは、「北海道は生産地と消費地が共存している豊かな地域で、産地が近いことで新鮮で栄養価が高く、体のためにも地元の食材を積極的に食べていくことが大切」と説明。生徒らは、地産地消や食の大切さ、産地の近いこの地域で生活しているありがたさを実感しました。



本別自慢の味「おいしい！」 10 24

本別産食材を使ったメニューが並ぶ「ふるさと給食」が10月24日、町内小・中学校と仙美里・勇足保育所で行われました。メニューはみそラーメン、ポテトコロッケ、カボチャ羊かんの3品で、本別産の味噌やタマネギ、トウモロコシのほか、カボチャやジャガイモなど本別自慢の味覚がたっぷり使用されています。仙美里小学校（寺島康博校長）では、全校児童30人と保護者21人や野菜の生産者である細田拓郎さんらが一緒に給食をいただき、2年生の仁王頭麗さんは、「ラーメンがおいしい。また食べたい」と笑顔で話していました。



社会貢献賞を受賞 11 4

国民健康保険制度の普及や事業運営の発展に長年の間貢献したとして、平成26年度北海道社会貢献賞（国民健康保険事業功労者）を受賞した河合篤史さん（本別町国民健康保険運営協議会会長）が11月4日、役場を訪れ高橋正夫町長に受賞の報告をしました。この表彰は北海道から贈られたもので、河合さんは、昭和62年より本町の国民健康保険運営協議会委員として、平成23年からは同協議会会長として27年間、同制度や町国保病院の運営に適切な助言等、現在も引き続きご尽力をいただいています。



笑顔でゴール

11 17

家庭教育支援事業「なかよし」によるちびっこ運動会が11月17日、健康管理センターで開かれました。参加した31組71人の親子は、子どもの月齢で9つのグループに分かれ、障害物競走、かけっこ、おやつ競争の3種目に挑戦。子供たちはゴール目指してお母さんと一緒に走ったり、台の上からジャンプするなど小さな体を元気にいっぱいにかし、かわいらしい笑顔を見せていました。



読み聞かせて 楽しい時間を過ごす

11 13

十勝管内で絵本や紙芝居などの読み聞かせボランティアを行っているあっちこち紙芝居(脇坂芳宏代表・帯広市)会員3人による読み聞かせの会が11月13日、仙美里保育所で開かれました。これは、脇坂さんが帯広の建設会社に勤務していた平成22年に、地域貢献活動として同保育所で読み聞かせを行ったのがきっかけで、脇坂さんが退職してからも継続して年に数回取り組まれています。会員らは、大型絵本や紙芝居などを幼児たちと対話をしながら丁寧に読み聞かせを行い、幼児らは、絵本に登場するキャラクターの真似をするなど、楽しい時間を過ごしました。



入所者に元気をプレゼント

11 10・11

中央保育所きりん組、べんぎん組の幼児19人が11月10日、共生型地域交流拠点あいの里交流センターを、南保育所ゆり組の幼児13人が11月11日、アメニティ本別を訪問し、両施設の入所者や利用者にかわいらしい歌声や踊りをプレゼントしました。入所者らは、子供たちの元気いっぱいな姿を笑顔で見守るとともに、発表が終わるたびに温かい拍手を送りました。



中央保育所 あいの里交流センター訪問



南保育所 アメニティ本別訪問

仕事を感じ、将来を考える

11 5

本別中学校の1年生が11月5日に、本別町内に職場体験学習を行いました。この学習は、同校の生徒が将来の目標を持つにあたって、それぞれの仕事の内容や、大変さなどを体験するという目的のもとに行われています。南保育所を訪れた、三浦柚菜さん、廻湖南那さんは、幼児と一緒にのびのびなパズル遊びや散歩などのふれあいを通じて、「思ったよりも大変だった。でも、小さい子と話せてよかった。将来は子どもと関わる仕事に就きたい」など、この学習を通じての感想を語りました。

※この記事は、職場体験学習で役場を訪れた、本別中学校1年の塚田淳さんが取材し書いたものです



新入学に 向けて準備

11 19

来年4月に小学校の新入学を迎える町内の幼児53人(男子27人、女子26人)の新入学児童健康診断が11月19日、町体育館で実施されました。保護者に手を引かれながら幼児らは、身長、体重測定、視力、聴力検査、内科、歯科検診を元気に受診し、入学に向け準備を整えました。



本別の特産品 をPR

11 13~18

オール十勝大取穫市が11月13日から18日の6日間、帯広市内の百貨店で開かれ、本別町観光協会と町内事業所が本別の特産品を販売・PRしました。販売したのは、小豆や黒豆などの今年の新作の生豆、クレイマメ商品や豆菓子など全63商品。「今年も本別の豆を楽しみにしていた」と話す来場者も多く、本別町特産品コーナーは大変盛況でした。



ふまネット、太極拳に挑戦!

11 10

第7回義経本別教室が11月10日、中央公民館で開催されました。同教室は毎回異なる内容で開かれており、今回は「ふまネットと太極拳」講座を実施。ふまネットは、リズムに合わせて足元の枠内を歩く運動で、参加した約30人は社会福祉協議会職員の指導のもと、数パターンの歩き方にチャレンジしました。太極拳では、講師の吉田弘子さん(新町)が「ゆっくりとした呼吸、動作が内臓、脳によく、足腰の強化につながります」と語り、参加者は2種類の運動を通して心地よい汗を流しました。



クレイマメの試作品を試食

11 7

十勝本別「クレイマメの会」(岡田清信代表)の今年度1回目となる会議が11月7日、新商品開発に向けた試食会をかねて道の駅「ステラ★ほんべつ」で開催されました。会議には、クレイマメ製品を製造販売する町内8団体と2協力団体、武蔵野美術大学基礎デザイン学科宮島慎吾主任教授らが出席。宮島教授から「特産品の課題・展開方法」についての講話が行われた後、会員らが試作した14品が持ち寄られ、商品の概略やねらいについて説明し、参加した21人で試食を行いました。試食後には全体での講評が行われ、「おいしい」「もっと味のインパクトがほしい」など活発な意見が出されました。



未来に輝く 子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星
たちです。お父さん、お母さん
のたくさんの愛に包まれてすく
すく元気に育ってね!



勇足西2
森 住
(里美ママ)



清流町
畑 山
桜士郎くん
(優佳ママ)



中央小学校
山川 武
琉くん
(早織ママ)



柏木町
宮野 下
慈くん
(拓美ママ)



山手町
中尾 一
護くん
(智美ママ)



上押帯
加藤 毅
一くん
(鮎奈ママ)

ご寄付ありがとうございます 平成26年10月16日から11月15日

次の通りご寄付をいただきました。
紙上をかりて厚くお礼申し上げます。(敬称略)

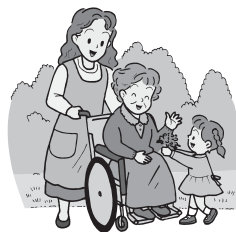
- ★本別町指定
ベンチ1台…NPO法人銀河ほんべつ 理事長 河合篤史
応接テーブル1台
……………CANONAJAPAN 代表取締役 中野翔太
- ★本別町国民健康保険病院医療施設等整備基金指定
金200,000円 ……………勇足西2 河野久雄

個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付

各金10,000円	静岡県 佐野 正	大阪府 塩 見 真 男
……………	東京都 徳井 藤 夫	東京都 山本 清 誠
……………	大阪府 吉田 剛 彦	東京都 落合 誠 二
……………	神奈川県 佐藤 穆	東京都 佃 啓 吾
……………	千葉県 勝 浩 昭	千葉県 鈴木 健 也
……………	神奈川県 橋本 秀子	東京都 岡本 拓 也
……………	滋賀県 深尾 一 広	
金50,000円	……………	千葉県 葛西 達 夫
計金870,000円	……………	匿名 87人

みんなの健康

364



祖母の認知症

と笑ってまた食事を出してあげていましたが、次第に「鍵がなくなった、お金がなくなった」と被害妄想が出てきてさらに徘徊もあつたため、3人の娘たちの家で順番に引き取り面倒を見ることになりました。自分の自宅を離れてからは、引越しをするたびに症状がひどくなり、最後は、未婚の嫁ぎ先で部屋から出すことも難しくなつて、そこで亡くなりました。症状が現れてから亡くなるまで間の全てを見ていたわけではありませんが、介護者ともより、本人もつらい1年を過ごしたのだと思います。今なら違った対応ができたのではないかと考えます。認知症の初期症状、もの忘れ、妄想、作り話、怒りっぽさ、元気がないボーとした様子等、早期に気付いて治療等に結び付けてあげたいものです。

本別町国民健康保険病院
医 長 岩 永 健 志

銀河ホップアラビアンズ

足寄町

足寄動物化石博物館 体験メニュー

足寄動物化石博物館では、さまざまな化石の石こうレプリカづくりやミニ発掘がいつでも体験できます。

- レプリカづくり
デスマスチルスの歯、サメの歯、アンモナイトなど16種類の中から選ぶことができます。製作時間は40分程度です。
- ミニ発掘(化石・クリスタル)
いろいろな工具を使って、石の中から本物の化石またはクリスタルを掘り出します。

陸別町

りくべつ鹿肉ロース 味噌漬け 新発売

陸別町で獲れた鹿ロース肉を渋谷醸造株式会社(本別町)の特製味噌に漬込みました。味は、辛みそ、なんばんみそ、白みそ3種類。夕食のおかず、お酒のつまみにぜひご賞味ください。

□価 格 680円(税込)
□内容量 160g



- 販売・お問い合わせ
陸別町観光物産館(道の駅内)
☎2712012
- 詳細 足寄動物化石博物館
☎2519100
- 掘り出した物は持ち帰ることができます。所要時間は30分程度です。
- 展示室観覧料
・一般 400円
・小・中学生、高校生、満65歳以上の人 ※幼児は無料です。団体ご利用される場合はお問い合わせください。
- ※レプリカづくりとミニ発掘は材料費として200円かかります
- 開館時間 午前9時30分～午後4時30分
※毎週火曜日(祝日の場合はその翌日が休館日) および12月30日～1月6日は休館です

本のある暮らし 165

図書館クリスマスコンサート

戸籍のまど

お誕生

10月後半から
11月前半の
届出分

- 宇佐 和敏^{のどか}実環^{あき}さん 10/10 中央小学校
- 岡本 航希^{こうき}しずか^{しずか}さん 10/12 勇足元町
- 佐々木 楓^{かえで}寿二^{こと}真美^{まみ}さん 10/16 向陽町
- 本寺 咲^{さき}弘和^{ひろ}梨^りさん 10/26 勇足元町
- 高橋 菜央^{なほ}祐介^{すけ}由華^{ゆま}さん 10/26 北6丁目
- 川村 陽向^{ひなた}く和也^{かず}美里^{みり}さん 10/31 北6丁目
- 荒木 希子^{きこ}卓^{たく}織^{おり}さん 11/3 南4丁目

ご結婚

- (三浦 純平^{じゆん}向陽^{むかひ}町
平井 さおり^{さおり}帯広^{おびひろ}市)
- (中野 貴文^{たかひこ}新町^{にんまち}
大西 晴香^{はるか}帯広^{おびひろ}市)
- (矢本 正道^{まさみち}帯広^{おびひろ}市
北野 友惟^{ともゆい}勇足元^{むすしげん}町)

おくやみ

- 阿部 恵子^{けいこ}69歳 10/14 柏木町
- 新津 武次^{たけつぐ}59歳 10/16 向陽町
- 福谷 巴^{ふた}86歳 10/18 北5丁目
- 矢花 ユキエ^{ゆきえ}96歳 10/18 勇足元町
- 河野 ユキエ^{ゆきえ}99歳 10/23 勇足西2
- 小林 好^{よし}85歳 10/28 向陽町
- 早瀬川 清治^{きよぢ}62歳 10/30 美里別東
- 堀江 トモ子^{ともこ}74歳 11/8 柳町
- 林 富夫^{とみお}59歳 11/11 北3丁目
- 向山 貞夫^{さだお}85歳 11/12 南2丁目
- 楠 茂つゑ^{しげつゑ}88歳 11/13 山手町

わたしたちのまち

前月比
人口 **7,777人(+3)**
男 **3,830人(-1)**
女 **3,947人(+4)**
世帯数 **3,767戸(+3)**
〔10月末日住民基本台帳〕

～本別出身の
オペラ歌手がやってくる♪～

早いもので、もうすぐクリスマスがやってきます。図書館では、本別町出身で、オペラ歌手や音楽学校の声楽講師として活躍されている川口千咲子さんをお迎えし、クリスマスコンサートを開催します。

歌を歌うことはストレス解消になり、心も身体も元気になります。定番のクリスマスソングから誰もが知っている「冬」をテーマにした曲を中心に、子どもから大人まで、皆さんと一緒に歌って、楽しいクリスマスを過ごしませんか。

かわぐち ちさこ
川口 千咲子さん プロフィール
1981年本別町生まれ。北海道教育大学札幌芸術文化課程音楽コース声楽専攻を卒業。その後、東邦音楽大学大学院音楽研究科声楽専攻修了。現在は同大学声楽講師。子どものための音楽劇、合唱等の音楽指導の経験もある。オペラ公演においては、「フィガロの結婚」等に出演。

とき 12月20日(土)
午後1時～午後3時

ところ 本別町図書館2階視聴覚室

- 内容**
- ・クリスマスソングメドレー他
 - ・簡単ボイストレーニング
 - ・ぶっくるカフェ臨時営業
 - ・幼児読み聞かせ「どうわかん」
～クリスマススペシャル～
 - ・クリスマスの本の展示



お問い合わせ先
本別町図書館
(愛称:ぶっくる一丸)
本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112